

自衛艦の給油 アメリカの戦争の支え

臨時国会で、政府与党は、インド洋における自衛隊の給油活動が続ける法律を通そうとしています。憲法に違反する戦争の片棒担ぎだと大問題となっています。

民間人が犠牲に

自衛艦がインド洋でアメリカの軍艦などに、国民の税金を使い無料で給油活動を行っています。そして自衛艦から給油を受けた米軍艦船の戦闘機によってアフガニスタンへの爆撃が行われ、イラク戦争に参加したことも明らかになっています。アフガンでは、米軍などの空爆で沢山の民間人が殺され、6年間で数千人に達していると考えられています。

憲法9条違反

アフガンの戦争は、アメリカが9・11テロへの報復として、国際法を無視して01年に一方的に始めた戦争です。その戦争を遂行しているアメリカの艦船に給油することは、海外での戦争に加担するもので、日本国憲法9条が禁止する行為です。

自民党は、憲法9条を変えて海外で「戦争する国」にすることをねらっていますが、自衛隊の戦争加担はその先取りです。

戦争でテロはなくならない

アメリカは、テロとのたたかいを声高に主張していますが、アフガン戦争、イラク戦争で憎しみを増幅させ一気にテロを世界に広げ、アフガンやイラクは今や泥沼の状況です。

アフガンで医療や水源確保の支援を続ける中村哲医師は、「殺しながら助けるなんて、そんな援助があるか」と語っています。

日本は憲法の精神に立って、教育や医療、農業や産業の支援などどこそ役割を発揮すべきではないでしょうか。戦争の片棒担ぎはやめ、自衛艦は直ちにインド洋から撤退すべきであり、新テロ特措法は廃案にすべきです。

軍事援助をやめるだけで積極的意味

アフガニスタンで医療や水源確保などの支援を続けてきた「ベシヤワール会」現地代表の中村哲さん(医師)の話

今できることといえば、何をするかより、何をしないかということです。

アフガン人はみんな「殺しながら助けるなんて、そんな援助があるのか」と言っている。だから、軍事援助をやめ、戦争の犠牲者を減らすということだけで、積極的な意味をもち、非常に感謝されると思います。テロ特措法が廃案になるだけでもいいことです。

(9月30日付「しんぶん赤旗」より)

